

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）活用した
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業
＜2カ年事業計画＞

協働による 「かみかつ茅葺き学校」 の展開

特定非営利活動法人 郷の元気

①- 1 地域課題の整理

■ 地域の状況や課題背景

- ・【里地・里山環境の消失】八重地地区は、高丸山山頂付近のブナ自然林をその水源涵養機能のために、集落が守り、維持してきた。集落には棚田が広がり、高丸山からの水が集落を潤している。高丸山周辺で炭を焼き、勝浦町まで歩いた道があったという。しかし、奥山ならではの炭焼きの業、棚田での耕作では収入を得られない時代になり、次第に仕事としての山への関わりが激減してしまった。人の手が加わることにより維持されてきた里地・里山の自然環境が消失しつつある。
- ・【集落の担い手が不足】八重地地区は上勝町の最奥の集落で、人口46人、高齢化率78%と、人口減少・高齢化が顕在し、集落の維持が困難になりつつある。上勝町内での仕事がないため、後継ぎが町外へ出てしまうことが多い。新たな集落の担い手づくりは集落、行政や外部支援者を含む協働の体制が必要不可欠である。茅葺き民家（花野邸）を集落活性化の拠点として、その有効な活用が住民から期待されているが、未達成となっている。
- ・【伝統的技術・伝統的暮らしの知恵の消失】八重地地区には、地域ならではの業を通じた伝統的技術、自然との折り合いをつけてきた山の暮らしと知恵がある。しかし、何でもお金で買える、労力や工夫が要らない都市的な生活が山でもできるようになり、伝統的な技術や知恵が必要なくなってしまう。伝統的技術や知恵は日常的に必要なではなくなったことから、徐々に知る人、知る機会が減っている。その価値を再認識し、伝承を意識した伝える場、知る場をつくる必要がある。

■ 何と何の地域課題の解決に取り組むか

- ①山離れと里地・里山環境の消失
- ②集落の担い手が不足している
- ③伝統的な技術や知恵の消失

② 事業の整理 (同時解決マップ)

最終
目標

- ・茅葺き学校を介して、山に人が関わり、里地・里山環境が活用されている
- ・茅葺き学校を介して、協働の体制が構築でき、集落維持活動に参加する新たな集落の担い手づくりが進んでいる
- ・八重地集落の伝統的な技術、山の暮らしの知恵が伝承されている



この取組 (5年間)
で何をを目指すか

- ・「かみかつ茅葺き学校」がESDの視点により活用されている
- ・「かみかつかや葺き学校」で持続可能な循環型の暮らしを学ぶことができる

- ・かや葺き見習い隊からかや葺きマイスターが誕生する
- ・かや葺き民家・花野邸および地域を支援する協働の輪が広がっている

- ・茅葺き学校を介して、山の資源が活用されている

2か年の
成果目標

- ・茅葺き学校において、茅葺き技術体験、山の暮らし体験が実施できるようになっている

- ・「かみかつ茅葺き学校」の仕組みが構築され、運営されている
- ・ESDの視点から見たプログラム開発ができている

- ・茅葺き学校を介して、茅葺き技術を体験した人が地域内外に10名できる (かや葺き見習い隊結成)
- ・新たな活動主体との協働ができる

- ・茅葺き民家の維持に必要な茅、竹、杉皮などの計画的な供給計画ができている



取組の
アイデア

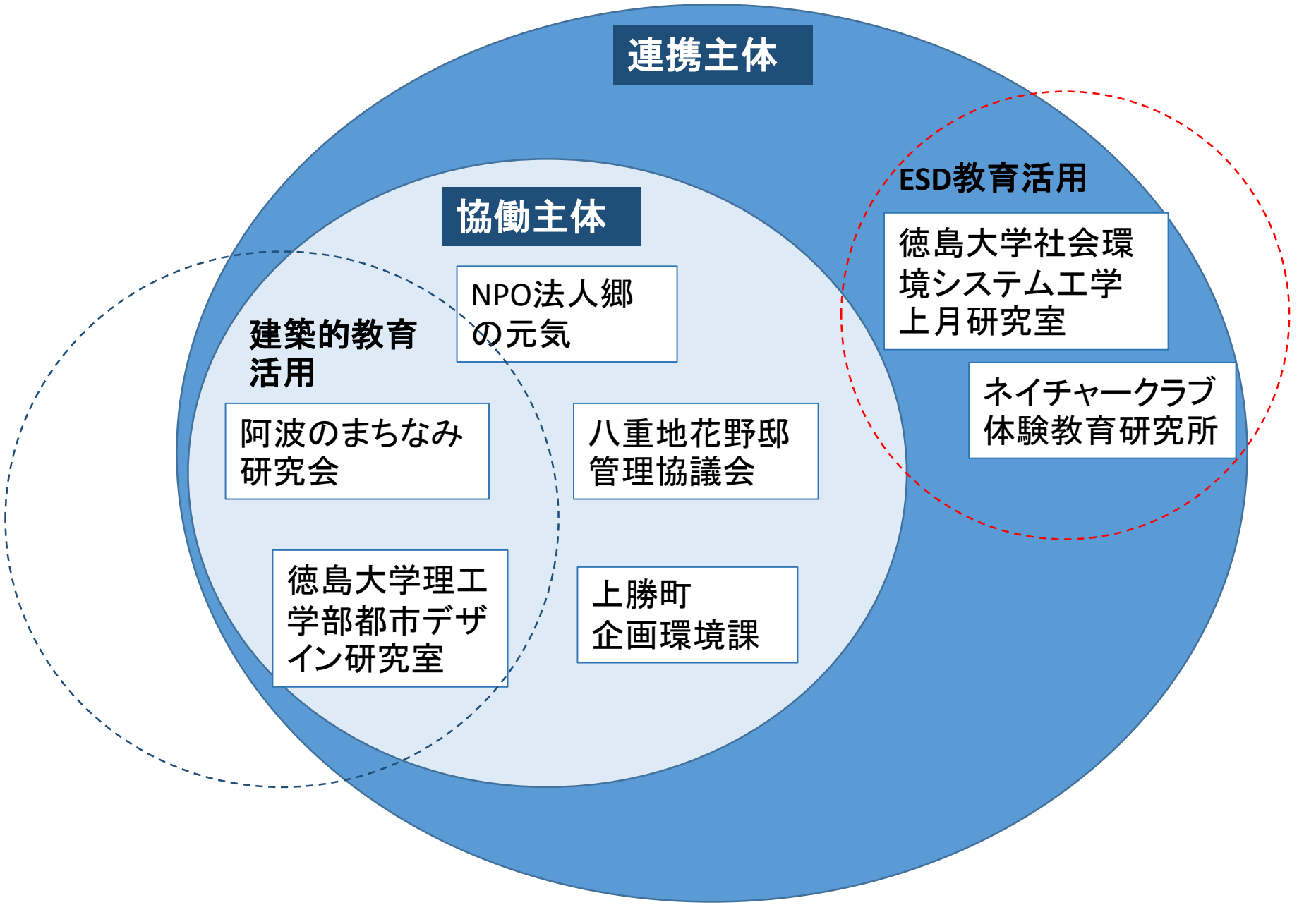
- ・茅葺き民家 (花野邸) の建築的価値、伝統的技術、暮らしの知恵を調査し、教材を作成する

- ・地域住民、NPO, 専門家、行政等との協働による「かみかつ茅葺き学校運営協議会」を設立する
- ・ESD専門家との協働を図る

- ・広く広報するとともに、ターゲットを絞ったPR活動をする
- ・他のテーマの活動主体との情報交換をする

- ・地域内の茅葺き材料採取地調査と、材料提供者を探す

③ 運営体制の整理（ステークホルダーとの関係性）



④ 平成30年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山離れと里地・里山環境の消失 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民へのヒアリングを行い、かや葺き屋根に必要な山の材料の種類、量などを明確にする。 ・地域住民へのヒアリングを行い、かつての山の暮らしで利用していた、山の資源の種類、利用の目的等を明らかにする。
<p>【取組課題②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落の担い手が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ・「かや葺き学校」の前段階として、実体験からの学びを得ることを目的とする「かみかつかや葺き予備校」を開催する。 ・他のテーマの活動主体との情報交換をする。 ・建築関連の専門家、学校等との情報交換をする。
<p>【取組課題③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な技術や知恵の消失 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への、かや葺きの建築、屋根の維持管理に関するヒアリングを行い、かや葺き技術についての情報をまとめる。 ・地域住民への、かや葺きの暮らしに関するヒアリングを行い、生活文化や手仕事についての情報をまとめる。

⑤ 本事業計画の見通し

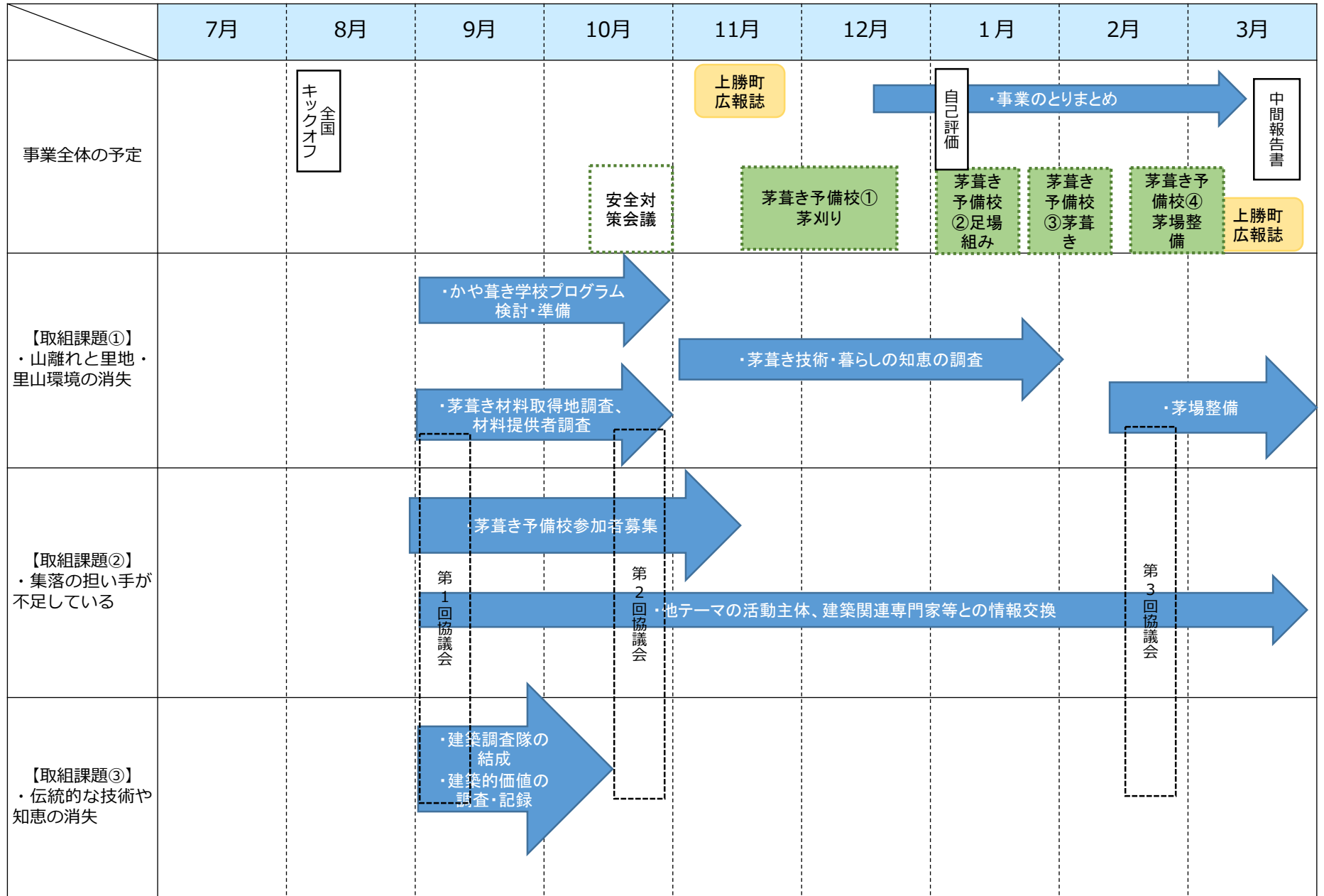
■ 事業期間内（2カ年）の到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
【取組課題①】 ・山離れと里地・里山環境の消失	・かや葺き民家で利用する「茅場」の整備が進んでいる。 ・かや葺き民家で利用する竹、スギ皮などの提供者を見つけ、交渉が完了している。 ・「かみかつかや葺き学校」を介して、山の資源が利用されている。
【取組課題②】 ・集落の担い手が不足している	・「かみかつかや葺き学校」を介して、新たなかや葺き体験者（茅葺き見習い隊：茅葺きボランティアを含む）が地域内外に10名以上できる。 ・「かみかつかや葺き学校」を介して、新たな活動主体との協働が創出されている。
【取組課題③】 ・伝統的な技術や知恵の消失	・かや葺きに関する地域の伝統的技術、かや葺き屋敷の暮らしの知恵や手仕事の情報をまとめ、ESDの視点による教材ができています。 ・「かみかつかや葺き学校」でESDの視点による体験活動が実施できている。 ・かや葺きの暮らしの価値を現代的意味付けができています。

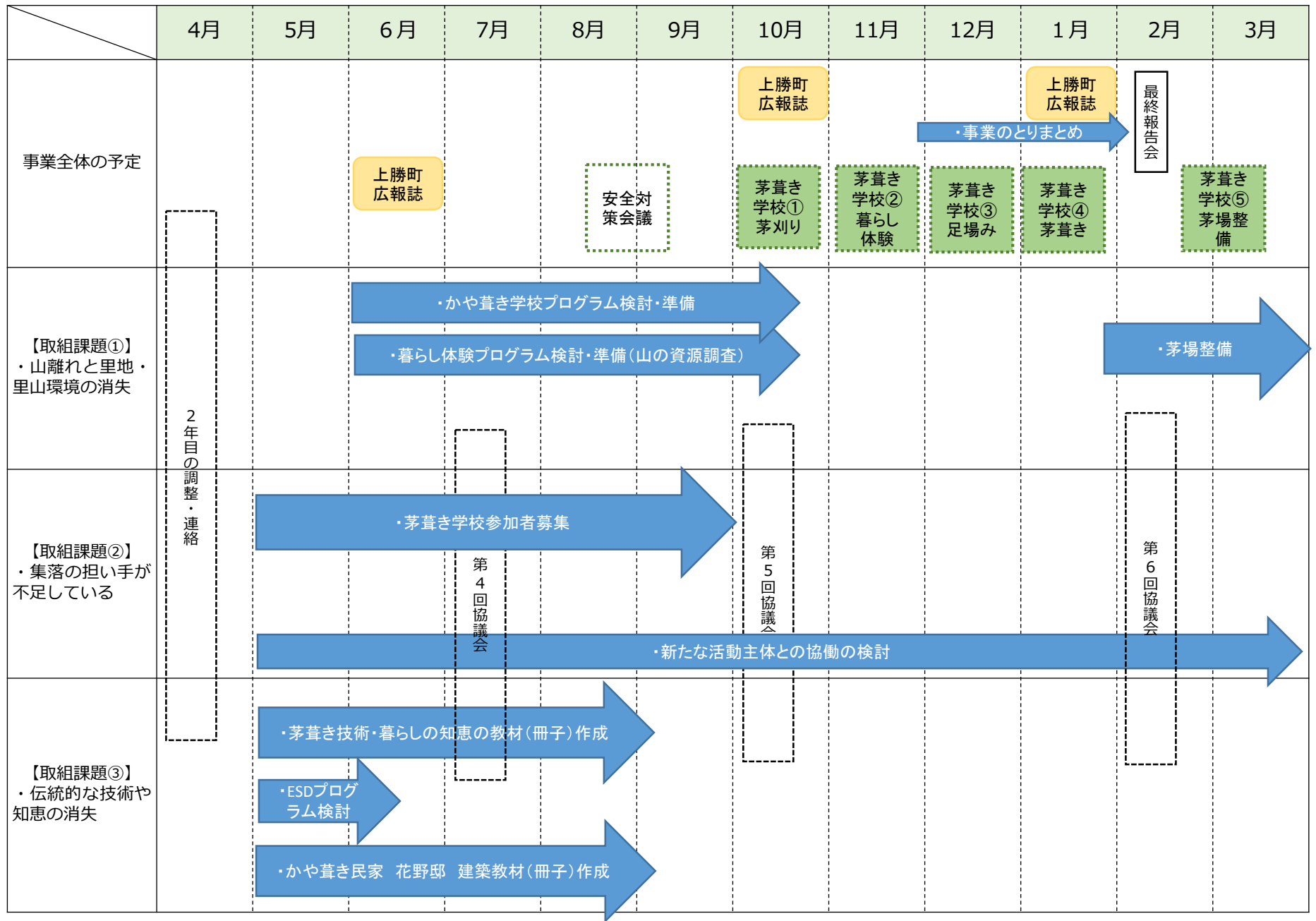
■ 5年後（事業期間終了から3年後）の取組と地域像

取組の状況や地域課題に対してどのような影響を与えているか
(取り組み課題①：里地・里山環境の消失) ・「かみかつかや葺き学校」を介して、山の茅場が整備され、利用できるようになる。 ・「かみかつかや葺き学校」における暮らし体験に必要な山の資源を増やす活動が推進される。 (取り組み課題②：集落の担い手が不足している) ・「かみかつかや葺き学校」を介して、「かや葺きマイスター」を育成する ・「かみかつかや葺き学校」を介して、新たな人と人のつながりが構築でき、協働の輪が広がる。 (取り組み課題③：伝統的な技術や知恵の消失) ・「かみかつかや葺き学校」の教材および体験の質を向上し、利用者増を図るとともに、かや葺き学校の自立的運営を目指し利用料金を設定する。 ・「かみかつかや葺き学校」において、薪の利用や小水力発電等の循環型の暮らしの設備を整え、循環型ライフスタイルが発信できるようになる。

⑥- 1 課題解決に向けたスケジュール（平成30年度）



⑥-2 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度）



2年目の調整・
連絡

第4回
協議会

第5回
協議会

第6回協議会

⑦ その他補足事項

■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- ・ かや葺きボランティアおよび、かや葺き学校の参加者を獲得するために、ターゲットを明確にすること、魅力的なプログラム作成を行う。
- ・ 「かや葺き」の社会的価値を発信できるよう、現代的価値の再確認および掘り起こし、強化を行う。
- ・ 地域住民の取組み課題に係わる理解や意識の醸成に時間を要することがリスクとして予想される。関係者と地域住民とのコミュニケーションの強化と、地域住民が参加できる場づくりを行う。
- ・ 本事業の上勝町内における位置づけを行うため、重要里地里山（八重地）およびSDG s 未来都市との連携ができるよう取り組む。

■ その他、留意事項などがあればお書きください

・